



会計学辞典



神戸大学会計学研究室編

同 文 館

昭和30年11月25日発行

会 計 学 辞 典

定 価 ￥ 1,700

編 集 者

神戸大学会計学研究室

代 表 山 下 勝 治

発 行 者

株式 同 文 館
会 社 服 部 幾 三 郎

製 版 者

兵庫県津名郡津名町志筑1589の1

株式 井 村 印 刷 所
会 社 井 村 ま さ

印 刷 者

大阪市東住吉区田辺本町1の32

ナルト印刷株式会社
佐 尾 渉

発 行 所

東京都千代田区神田神保町1の23

株式 同 文 館
会 社

TEL. 東京(29) 9427・1822

振替口座 東京135番

編 集 委 員

山	下	勝	治
渡	邊		進
丹	波	康	郎
久	保	田	郎
戸	田	音	郎
大	田	義	郎
溝	塚	俊	郎
谷	口	一	雄
	端		長

編 集 補 助

能	勢	信	子
高	田	正	淳
富	田	忠	雄
難	波	恒	郎
上	村	久	雄

刊 行 の こ と ば

昭和24年7月、企業会計原則および財務諸表準則の公表を起点として、その後にもみられた証券取引法に基づく法定監査制度、公認会計士制度の創設、監査基準の制定、企業会計と商法・税法の調整問題など、これらは、いずれも、近代会計思考の広汎な制度化への一連の力強い動きであることはいうまでもない。さらにまた、最近来経営実践の切実な要請に即応して発展した、新しい原価計算的思考ないし管理会計的方法の顕著な展開にも明瞭にみられるように、企業会計領域において、今日ほど切実にして解決を要する多くの問題をもった時代もなければ、同様に今日ほど、会計学について広い階層に亙り、深い関心が寄せられた時代もまた、われわれの未だ経験しないところである。

このような社会的背景の下においては、広汎な会計学の全領域に亙り、明確な知識と透徹した理解とをもつことが要請されるのは当然のことながら、しかもなお、このことは必ずしも容易なことではない。ここに、拠るべき権威ある会計学辞典の刊行が要望せられるに至ったゆえんである。すなわち、わが神戸大学会計学関係研究室においては、かつて文部省学術用語分科審議会の委嘱による会計学用語選定の業を引きうけた経験を生かし、会計学辞典の編集を企画するに至ったものである。幸にして、旧制神戸経済大学より移行した経営学部における会計学関係4講座、経営財務論1講座、それに経済経営研究所における経営経理1講座、計6講座・6研究室協同の下に、会計学辞典編集委員会が構成されたのは、昨年秋のことであつた。爾来、文字通り共同の責任において、終始、辞典編集の業に専念して以来僅かに満1カ年、ここに、その大著の刊行をみるに至ったことは、いささか、われわれの自負するところで

ある。

もちろん、それは、われわれ編集委員一同のうちに流れる一貫した協同精神のもたらしたものではあるが、それにもまして、ごく短時日のうちに、130名にも上る学界・実務界のわが国一流著述者の心からなる協力をかけ、第一級執筆者陣をよくそろえたことが、この成功への何より大きい原因でもある。その力強い協力のお蔭により、本辞典は、われわれの念願としての現代会計学の学術的水準を盛るべき権威をゆうに誇るに足るものとなり、安んじて、これを世に送ることができるに至ったものである。

本辞典成るに及んで、ここに、協力を賜った130名に上る執筆者各位に、編集委員一同を代表して深甚なる謝意を表することを許されたい。編集幹事として活躍された溝口一雄、谷端長の両氏に対しても、われわれはふかく感謝しなければならないが、わけでも、己を無にして、終始献身的な労苦を惜しまれなかった谷端長氏に対しては、全く感謝の言葉もなく、ただ、感激あるのみである。同文館社長服部幾三郎、企画部長中島朝彦、企画部主任小佐治安、業務部志沢芳夫4氏もまた、本辞典刊行について忘れることのできない方々であり、記して謝意を表したい。

末文ながら、われわれは、またここに、本学50有余年に亙る永い会計学研究の歴史において、いまは亡き元教授、東甕五郎、原口亮平、林健二先生の残された偉大な学問的功績を回顧し、謹んでその霊に敬意を表する。

1955年9月

神戸大学会計学研究室

代表 山下 勝治

執 筆 者

[illegible]

一	富	橋	大	學	教	授	高	橋	長	太	郎	國	稅	庁	調	査	課	長	松	井	静	郎
富	山	山	山	山	山	山	武	光	兼	重	重	日	本	通	巡	理	事	松	村	直	一	郎
國	神	神	神	神	神	神	竹	田	昌	輔	輔	會	橋	大	學	學	長	水	本	雅	一	助
神	神	神	神	神	神	神	田	中	龍	雄	雄	一	神	信	國	學	授	湊	谷	一	男	助
神	神	神	神	神	神	神	田	島	四	郎	郎	神	査	査	察	學	士	宮	上	良	一	男
神	神	神	神	神	神	神	田	中	一	和	和	神	大	立	學	學	長	村	瀨	一	省	助
神	神	神	神	神	神	神	田	村	盛	郎	郎	神	大	大	學	學	授	森	島	勝	之	助
神	神	神	神	神	神	神	近	澤	市	治	治	神	大	大	學	學	授	諸	木	英	商	助
神	神	神	神	神	神	神	忠	岐	弘	市	市	神	大	大	學	學	授	八	崎	六	忠	助
神	神	神	神	神	神	神	土	井	佐	藏	藏	神	大	大	學	學	授	山	下	六	二	助
神	神	神	神	神	神	神	中	島	政	雄	雄	神	大	大	學	學	授	山	城	忠	實	助
神	神	神	神	神	神	神	中	西	春	利	利	神	大	大	學	學	授	山	邊	二	清	助
神	神	神	神	神	神	神	中	村	邦	雄	雄	神	大	大	學	學	授	山	柁	實	義	助
神	神	神	神	神	神	神	中	島	寅	次	次	神	大	大	學	學	授	山	國	清	義	助
神	神	神	神	神	神	神	鍋	川	萬	達	達	神	大	大	學	學	授	山	永	義	三	助
神	神	神	神	神	神	神	西	孝	治	郎	郎	神	大	大	學	學	授	山	村	三	雄	助
神	神	神	神	神	神	神	西	嘉	義	郎	郎	神	大	大	學	學	授	山	部	三	雄	助
神	神	神	神	神	神	神	西	正	一	已	已	神	大	大	學	學	授	山	部	三	雄	助
神	神	神	神	神	神	神	野	新	之	藏	藏	神	大	大	學	學	授	山	部	三	雄	助
神	神	神	神	神	神	神	野	祐	周	助	助	神	大	大	學	學	授	山	部	三	雄	助
神	神	神	神	神	神	神	野	克	一	次	次	神	大	大	學	學	授	山	部	三	雄	助
神	神	神	神	神	神	神	橋	嘉	勇	重	重	神	大	大	學	學	授	山	部	三	雄	助
神	神	神	神	神	神	神	長	野	太	三	三	神	大	大	學	學	授	山	部	三	雄	助
神	神	神	神	神	神	神	馬	泰	太	郎	郎	神	大	大	學	學	授	山	部	三	雄	助
神	神	神	神	神	神	神	番	敬	榮	夫	夫	神	大	大	學	學	授	山	部	三	雄	助
神	神	神	神	神	神	神	日	川	芳	郎	郎	神	大	大	學	學	授	山	部	三	雄	助
神	神	神	神	神	神	神	平	井	宗	郎	郎	神	大	大	學	學	授	山	部	三	雄	助
神	神	神	神	神	神	神	福	江	祐	一	一	神	大	大	學	學	授	山	部	三	雄	助
神	神	神	神	神	神	神	古	崎	祐	卓	卓	神	大	大	學	學	授	山	部	三	雄	助
神	神	神	神	神	神	神	細	谷	久	弘	弘	神	大	大	學	學	授	山	部	三	雄	助
神	神	神	神	神	神	神	堀	增	久	久	久	神	大	大	學	學	授	山	部	三	雄	助
神	神	神	神	神	神	神	增	增	久	久	久	神	大	大	學	學	授	山	部	三	雄	助

編 集 方 針

1. 最近における会計学領域の著しい拡充・発展に即応して、その全領域にわたる全項目をもれなく選定することに意を用いた。
2. 項目選定は、原則として小項目主義によった。その際とり入れた各会計部門間の項目数は、必ずしも平均的ではなく、それぞれの項目にあてられた枚数にも差等をつけた。けだし、なるべくそれぞれの項目のもつ重要性を考慮しようとしたことによる。
3. 平面的・羅列的な解説ものとしての辞典のもつ常識からぬけ出て、むしろ、小項目主義に立ちながら、内容的には立体的・体系的な色彩を与えようと企図した。巻頭に掲げた体系目次は、その一つの現われである。
4. それぞれの項目に、適切な執筆者をうることの重要性をつよく自覚して、最適な執筆者を選定することにとくに意を用いた。
5. 新しい用語の導入によって、あるいは従来の用語との混乱がみられるほか、その用法・解釈にもまた統一がない現状に照らし、これら用語・用法・解釈などの統一化を企図した。そのために、主としてわれわれの手に成る文部省学術用語分科審議会会計学用語分科会の選定原案を尊重した。
6. それぞれの用語に、できる限りの確な相当外国語を附記することに努めたほか、巻末には、とくに内外の重要文献を掲げ、もって一般研究者の便宜に資しようとした。

凡 例

1. 項目の配列は、表音式50音順とし、次の基準によった。

イ) 邦語の長音は「ウ」で表わし、その順序による。例えば、「費用」は「ヒヨウ」。

ロ) 外国語を片仮名に移したときは、長音は長音符「ー」を用い、配列は長音符を無視した順序による。例えば、Schmalenbach は「シュマーレンバッハ」とし「シュマレンハツハ」として配列。

ハ) 促音は「ツ」で表わし、その順序により、濁音・半濁音は清音として配列する。例えば、「合併差損益」は「カツヘイサソソエキ」。

2. 勘定項目および解説中に引用される勘定名は、次の二つに区別して表示した。

イ) 具体的な財務諸表上の勘定、もしくは慣用的に勘定科目となりうる勘定については、「×× 勘定」とせずに「×× a/c」とする。例えば、「仮払金 a/c」(この場合、相当英語は suspense payment a/c と書く)。

ロ) 抽象的名称もしくは集合的呼称としての勘定は、「×× 勘定」とする。例えば、「統括勘定」(この場合、相当英語は controlling account と書く)。

3. 外国語項目および解説中に引用される外国語用語は、原則として片仮名に移し、慣用の読み方に従ったが、その主なものについては読み方を統一した。例えば、equity は「エクイティ」。ただし、慣用的な略語は、そのまま原語を用い、書き方および読み方を統一した。例えば、AAA は、「A.A.A.」と書かずに「AAA」と書き、「エーエーエー」と読まずに「エイエイエイ」と読む。

4. 外国人名項目および解説中に引用される外国人名は、3に準ずるほか、姓だけを掲げ、原名については姓を先にして名を後にした。ただし、解説中の外国人名については、原則として原名は()を付け、かつ、名を略字とした。例えば、Eugen Schmalenbach は、項目名としては「シュマーレンバッハ Schmalenbach, Eugen」とするが、解説中では「シュマーレンバッハ (Schmalenbach, E.)」とする。

5. 解説中に引用される外国書名は、著名なものについては邦訳で書き、なるべく()を付けて原名を掲げた。例えば、「動的貸借対照表論 (Dynamische Bilanz)」。

6. 項目名の直後の()は、項目の用途を限定するために付けたが、[例えば減債基金法(減価償却)、会計団体(アメリカ)]、税務会計の項目については全項目に(税務)を付け、社会会計の項目にについても、項目名の中に社会会計という字が出ない項目については、すべて(社会会計)を付けた。

7. 項目には、解説に先立って原則として相当外国語を掲げ、〔英〕××、〔独〕××、〔仏〕××等で表示したが、正確な相当外国語がないもの、または確かでないもの、もしくは未熟なものについては、むしろ濫造を避けた。
8. 項目名および解説の用語は、原則として当用漢字、新仮名づかいによった。ただし、会計上の慣用語については、当用漢字になくても慣用の漢字を用いた。例えば、「棚卸資産」。
9. 外国語は、固有名詞およびドイツ語名詞以外はすべて頭文字を小文字とした。なお、定冠詞および不定冠詞はすべて略した。ただし、外国書名等についてはこの限りではない。
10. 同義語項目は、独立項目として所属の場所に配列したが、「×× をみよ」として解説は略した。例えば、「睡眠勘定〔英〕 sleeping account 休止勘定をみよ。」
11. 同類語項目は、10と同じく独立項目として所属の場所に配列し、解説は略したが、「→ ××」を付けて同義語項目と区別した。例えば、「減資剰余金〔英〕 surplus from capital-reduction →減資差損益」。
12. ある項目の解説中に用いられる用語で、別に独立項目となっていて、しかもこの独立項目の解説を参照するのが当該項目の理解に役立つ用語（関連項目ないし対照項目）は、その用語の左肩に＊印を付けた。解説中に用いられていなくても、この独立項目を参照するのが便宜である場合には、解説の最後にこの独立項目を掲げて左肩に＊印を付けた。
13. 各項目については、執筆の責任を明らかにするため、本文末尾に（ ）を付けて執筆者名を掲げた。

体 系 目 次

簿 記

総 論

簿 記	838
簿記と会計	839
簿記と統計	840
簿記理論	840
ブラウンの会計史	815
ウールフの会計史	35
ジョーフェキングの会計史	409
ペンドルフの会計史	830
ペラガロの会計史	829
エジプトの会計	44
バビロニアの会計	747
ギリシャの会計	181
ローマの会計	916
フローレンス地方の会計記録	823
フローレンス式簿記	822
ジェノア地方の会計記録	370
ジェノア式簿記	370
ヴェニス地方の会計記録	26
ヴェニス式簿記	25
複記式記入	794
記帳数字	169
記帳様式の発達	169
コメンダ	316
オランダ簿記史	48
ジャクム・オリヴィエの会計記録	432
フッガー商会の棚卸	802
ザヴァリイ「完全な商人」	358
会計諸表の発展	63
代理人簿記	598
主人勘定	451
(マスター・アカウント)	851
資本主簿記	420
ズ ム マ	502

帳合之法	630
パチオオリ	742
グラマチュース	189
マンツォーニ	853
イムピン	21
ゴットリーブ	302
ピエトラ	760
カ ッ ツ	93
簿記の種類	840
定期簿記	653
継続簿記	215
(経過簿記)	206
体系的簿記	585
単式簿記	620
複式簿記	797
複式簿記の伝播	798
企業簿記	161
営業簿記	41
(財務簿記)	355
経営簿記	203
工場簿記	284
商業簿記	463
工業簿記	277
農業簿記	733
協同組合簿記	178
中小企業簿記	627
中小企業簿記要領	629
中小会社経営簿記	627
中小会社経営簿記要領	627
青色申告簿記	2
官庁簿記	147
家計簿記	86
カメラル簿記	110
収支簿記	444
機密簿記	172
財 産	333
積極財産	542
消極財産	463
正味財産	473

(純財産)	458
資 産	389
負 債	800
資 本	410
取 引	701
簿記能力	840
交換取引	274
(交替取引)	289
(財産取引)	335
損益取引	579
(増減取引)	561
混合取引	318
単純取引	621
複合取引	795
内部取引	715
外部取引	81
準 取 引	458
帳簿取引	638
実 取 引	404
勘 定	134
勘定の発達	141
勘定口座	135
勘定口座の発達	135
借方・貸方	111
勘定科目	134
仕 訳	485
現金式仕訳	255
貸借平均原理	592
取引の二重性	704
取引要素説	704
日本固有簿記法	722
出雲帳合	15
開城簿記	77
朝鮮固有簿記	633
中国固有簿記法	625

勘 定 理 論

勘定理論	142
(勘定学説)	134

体 系 目 次

人的勘定学説……………	491	对照勘定……………	592	未經過保險料 a/c……………	854
人的一勘定系統学説……………	490	經過勘定……………	205	未經過割引料 a/c……………	854
（擬人説）……………	163	繰延勘定……………	191	未収利息 a/c……………	856
五勘定論者……………	295	見越勘定……………	855	未収手数料 a/c……………	856
人的二勘定系統学説……………	491	備忘勘定……………	767	社内立替金 a/c……………	473
物的勘定学説……………	804	一円勘定……………	17	役員立替金 a/c……………	871
数学的勘定学説……………	497	通過勘定……………	647	店主貸 a/c……………	665
物的一勘定系統学説……………	803	集合勘定……………	442	貸付金 a/c……………	90
（營業学説）……………	39	（集計勘定）……………	442	手形貸付金 a/c……………	655
物的二勘定系統学説……………	806	混合勘定……………	317	未収金 a/c……………	855
三勘定系統学説……………	363	決算勘定……………	222	前渡金 a/c……………	851
資本方程式……………	421	休止勘定……………	175	不渡手形 a/c……………	824
貸借对照表方程式……………	591	（睡眠勘定）……………	497	仮払金 a/c……………	112
損益方程式……………	582	静止勘定……………	519	（仮渡金 a/c）……………	112
成果方程式……………	506	活動勘定……………	94	未決算 a/c……………	855
现实的勘定理論……………	263	財務勘定……………	349	建物 a/c……………	601
貸借对照表学説……………	586	仮勘定……………	111	構築物 a/c……………	289
等価学説……………	674	現金 a/c……………	254	機械装置 a/c……………	152
貸借对照表二勘定系統		小口現金 a/c……………	297	船舶 a/c……………	551
学説……………	589	（小払資金 a/c）……………	312	車輛・運搬具 a/c……………	438
成果学説……………	503	定額資金前渡制度……………	652	工具・器具 a/c……………	279
（動的勘定学説）……………	686	（インプレスト・システム）……………	25	備品 a/c……………	767
勘定組織		預金 a/c……………	881	什器 a/c……………	442
勘定の種類……………	139	現金・預金 a/c……………	257	造作 a/c……………	564
貸借对照表勘定……………	588	受取手形 a/c……………	28	土地 a/c……………	699
損益計算書勘定……………	577	売掛金 a/c……………	33	建設仮 a/c……………	265
剰余金計算書勘定……………	476	受託販売 a/c……………	452	投資有価証券……………	683
在高勘定……………	9	受託販売立替金 a/c……………	453	出資金……………	454
損益勘定……………	574	受託買付 a/c……………	452	投資不動産……………	682
実体勘定……………	402	受託買付未収金 a/c……………	452	金錢信託 a/c……………	183
（實在勘定）……………	400	組合売買 a/c……………	186	供託金 a/c……………	178
名目勘定……………	865	諸向借 a/c……………	485	敷金 a/c……………	375
人的勘定……………	490	有価証券 a/c……………	872	創業費……………	559
人名勘定……………	493	貸付有価証券 a/c……………	90	開発費……………	79
物的勘定……………	804	保証差入有価証券 a/c……………	843	試験研究費……………	383
（非人的勘定）……………	766	保管有価証券 a/c……………	838	建設利息……………	266
統括勘定……………	674	商品 a/c……………	471	臨時巨額損失……………	904
（統轄勘定）……………	674	繰越商品 a/c……………	191	（割引手形見返 a/c）……………	921
（統制勘定）……………	684	（商品棚卸 a/c）……………	472	（裏書義務見返 a/c）……………	29
内訳勘定……………	29	未着品 a/c……………	857	（保証債務見返 a/c）……………	843
照合勘定……………	465	積送品 a/c……………	540	売渡契約未収金 a/c……………	35
（整理勘定）……………	539	試送品 a/c……………	397	買受契約 a/c……………	51
主勘定……………	450	仮出品 a/c……………	111	支払手形 a/c……………	408
従属勘定……………	447	割賦販売……………	919	買掛金 a/c……………	52
評價勘定……………	773	消耗品 a/c……………	474	諸向貸 a/c……………	485
相殺勘定……………	564	未經過広告料 a/c……………	854	商品切手 a/c……………	472
附加勘定……………	792	未經過賃借料 a/c……………	854	割賦買入……………	919
				借入金 a/c……………	110

体 系 目 次

手形借入金 a/c	655
当座借越 a/c	679
未払金 a/c	859
未払賃借料 a/c	860
未払税金 a/c	860
未払利息 a/c	861
未払配当金 a/c	860
預り金 a/c	5
前受金 a/c	850
前受賃借料 a/c	850
前受利息 a/c	850
役員借入金 a/c	871
店主借 a/c	665
仮受金 a/c	111
社 債	433
担保付借入金 a/c	622
割引手形 a/c	921
裏書義務 a/c	29
保証債務 a/c	843
売渡契約 a/c	35
買受契約未払金 a/c	51
引 当 金	764
資本金 a/c	413
出資金 a/c	454
引出金 a/c	765
資本剰余金	416
利益剰余金	895
積 立 金	650
資本主個人 a/c	420
前期損益 a/c	543
(繰越損益 a/c)	191
当期利益金 a/c	676
当期損失金 a/c	675
総勘定元帳 a/c	556
一般元帳統制 a/c	19
得意先元帳 a/c	691
仕入先元帳 a/c	368
秘密元帳 a/c	768
売上 a/c	29
売上値引 a/c	33
戻り品 a/c	870
積送品売買損益 a/c	541
未着品売買損益 a/c	858
仕入 a/c	367
仕入値引 a/c	368
戻し品 a/c	869
仕入運賃 a/c	367
売上原価 a/c	30

売買 a/c	738
一般管理費及び販売費	19
営業費 a/c	39
機密費 a/c	172
雑費 a/c	362
受取利息・割引料 a/c	29
有価証券利息 a/c	874
受取配当金 a/c	28
有価証券売却(損)益 a/c	872
有価証券評価(損)益 a/c	874
為替差損益 a/c	113
仕入割引 a/c	369
雑収入 a/c	361
償却債権取立益 a/c	461
支払利息・割引料 a/c	409
貸倒償却 a/c	89
貸倒損失 a/c	90
売上割引 a/c	33
棚卸減耗費 a/c	603
(棚卸差損益 a/c)	603
現金過不足 a/c	253
雑支出 a/c	361
火災損失 a/c	87
前期損益修正	543
集合損益 a/c	442
(損益 a/c)	574
開始残高 a/c	73
閉鎖残高 a/c	828
勘定組織	136
(勘定体系)	138
勘定記号法	134
(勘定符号法)	141
数字記号法	499
文字記号法	868
結 合 法	221

帳 簿 組 織

帳 簿	633
商業帳簿(商法)	463
会計帳簿(商法)	68
帳簿記入	635
原始記入	261
転 記	662
装釘帳簿	569
非装釘帳簿	766
カード式帳簿	100
ルース・リーフ式帳簿	907
カードックス式帳簿	99

バインデックス式帳簿	739
主 要 簿	456
(基礎帳簿)	165
日 記 帳	717
(営業日誌)	39
仕 訳 帳	486
仕訳日記帳	487
多桁式仕訳帳	600
現金式仕訳帳	255
元 帳	869
総勘定元帳	556
多桁式元帳	600
補 助 簿	844
(明細帳簿)	865
現金出納帳	257
現金収納帳	256
現金支払帳	256
小口現金出納帳	297
(小払資金出納帳)	312
当座預金出納帳	680
受取手形記入帳	28
支払手形記入帳	408
仕 入 帳	368
売 上 帳	32
補助元帳	844
(分割元帳)	824
得意先元帳	691
(売掛金元帳)	34
売掛帳(中小企業簿記)	35
債権元帳(中小企業簿記)	322
有価証券元帳	874
商品在高帳	470
(商品元帳)	472
固定資産台帳	305
備品台帳	767
仕入先元帳	367
(買掛金元帳)	52
買掛帳(中小企業簿記)	52
債務元帳(中小企業簿記)	356
社債台帳	434
株主台帳	109
分割仕訳帳	824
特殊仕訳帳	693
一般仕訳帳	19
普通仕訳帳	802
総合仕訳帳	562
独自平均組織	691
独自平均元帳	691

体 系 目 次

帳 票	633
伝 票	666
入金伝票	724
(収入伝票)	449
(収納伝票)	449
出金伝票	453
(支出伝票)	394
(支払伝票)	408
振替伝票	818
伝票代用書式	666
伝票制度	666
伝票集計票	666
証 憑	468
(証憑書)	470
流通性証憑	900
仕訳証憑書	486
証憑記入帳	469
支払勘定記入帳	407
証憑式当座預金支払帳	470
未払証憑一覧表	860
証憑式記入帳制度	469
(バウチャー・システム)	739
(バウチャー・レヂスタ ー・システム)	739
複写伝票式帳簿	799
帳簿組織	635
イタリヤ式簿記	16
イタリヤ式総合簿記	16
ドイツ式簿記	668
いわゆるドイツ式簿記法	23
拡張イタリヤ式簿記	85
総合帳簿組織	563
ドイツ式総合簿記	668
同時排列式帳簿組織	682
表式簿記	777
多桁式簿記	600
アメリカ式簿記	9
表式仕訳帳	777
仕訳元帳	487
ボストン式元帳	845
ロシヤ式簿記	914
シャンド式簿記法	438
ロジスモグラフィア	915
スタトモグラフィア	501
統制帳簿組織	684
ドイツ・フランス式簿記	669
フランス式簿記	816

マルティン・パタイニ式 簿記	852
イギリス式簿記	11
帳簿なし簿記	638

決 算

決 算	221
会計年度	69
(営業年度)	39
決 算 期	222
決算手続	223
決算予備手続	224
試算表	392
合計試算表	279
残高試算表	365
合計残高試算表	279
日 計 表	718
月 計 表	219
棚 卸 表	614
棚 卸	602
実地棚卸	403
帳簿棚卸	638
恒久棚卸	275
決算本手続	223
決算整理	223
(決算修正)	223
減価償却	244
評 価	772
現金主義	256
発生主義	745
実現主義	399
保守主義	843
引 当 金	764
勘定締切	133
当期業績主義	674
包括主義	832
大陸式決算法	597
英米式決算法	43
精 算 表	515
精算表の応用	517
財務諸表	350
損益計算書	576
貸借対照表	585
剰余金計算書	476
資本剰余金計算書	417
利益剰余金計算書	895
剰余金処分計算書	477
欠損金処理計算書	227

財産目録	337
財務諸表附属明細表	353
再整理仕訳	340

本支店会計

本支店会計	845
合併損益計算書	97
合併貸借対照表	98
本支店振替利益	847
社内振替利益	437
本支店取引	846
支店間取引	405
照合勘定	465
本店 a/c	848
支店 a/c	405
外国支店 a/c	71
工場元帳 a/c	285
本社元帳 a/c	348
出張所 a/c	454
代理店 a/c	598
未 達 a/c	857
連結損益計算書	909
連結損益計算書精算表	909
連結貸借対照表	909
連結貸借対照表精算表	910
持株会社	868
関係会社	114
親子会社	48
会社相互間利益	75
少数株主持分	467
関係会社売掛金	114
関係会社貸付金	115
関係会社有価証券	116
関係会社出資金	115
関係会社買掛金	115
関係会社借入金	115
工 業 簿 記	
工業簿記	277
工業会計	275
工場簿記	284
経営簿記	203
工場独立会計	283
材(原)料仕訳帳	326
材(原)料受払帳	322
労務費仕訳帳	912
賃金仕訳帳	645

経費仕訳帳	216
一般管理費・販売費仕訳帳	19
工場元帳	285
原価元帳	252
製品元帳	534
半製品元帳	751
材(原)料元帳	331
賃金元帳	645
賃金台帳	645
経費元帳	217
(経費内訳帳)	216
製造間接費内訳帳	522
部門費元帳	813
製品 a/c	533
売上(品)総原価 a/c	33
製造 a/c	522
仕掛品 a/c	371
半製品 a/c	751
材(原)料 a/c	323
工場消耗品 a/c	283
材(原)料費 a/c	328
部分品 a/c	811
賃金 a/c	643
労務費 a/c	911
賃金計算	643
退職金計算	595
経費 a/c	216
製造間接費 a/c	523
製造間接費配賦 a/c	525
外注加工費 a/c	78
製造部門費 a/c	531
補助部門費 a/c	844
部門共通費 a/c	812
副産品 a/c	796
仕損品 a/c	399
作業屑 a/c	359
納品伝票	733
入庫伝票	724
検収伝票	264
出庫伝票	453
材(原)料庫出請求書	323
材(原)料戻入伝票	331
コンテナラメン	318
製造原価計算勘定	527
原価種類勘定	244
原価場所勘定	249

銀行簿記

原価負担者勘定	250
中性費用・収益勘定	629
予備クラス勘定	893
銀行簿記	181
銀行会計	181
銀行簿記精法	182
シャンド式簿記法	438
シャンド	438
入金取引	724
出金取引	453
振替取引	819
出納振替	497
手形交換手続	655
逆交換	173
為替取引	113
付替制度(内国為替)	649
内国為替集中決済制度	706
当方口	688
(仕向口)	423
先方口	552
(被仕向口)	766
現金 a/c	254
預け金 a/c	5
為替決済預け金 a/c	113
地金銀 a/c	381
外国通貨 a/c	72
コール・ローン a/c	317
割引手形 a/c	921
銀行引受手形 a/c	181
商業手形 a/c	462
荷付為替手形 a/c	716
手形貸付 a/c	655
証書貸付 a/c	467
当座貸越 a/c	678
輸入手形決済資金貸 a/c	879
輸入手形決済資金借 a/c	879
外国為替 a/c	71
買入外国為替 a/c	50
売渡外国為替 a/c	35
利付為替手形 a/c	898
外国他店貸 a/c	72
外国他店借 a/c	72
外国為替決済資金貸 a/c	71
外国為替決済資金借 a/c	71
未決済為替貸 a/c	854
未決済為替借 a/c	855

他店貸 a/c	601
他店借 a/c	601
営業用土地・建物・什器 a/c	41
所有動産・不動産 a/c	485
命令融資政府補償請求権 a/c	866
預金 a/c	882
振出小切手口	820
預金手形	882
支払保証口	409
保証小切手	843
借入金 a/c	433
再割引手形 a/c	357
コール・マナー a/c	316
支払承諾 a/c	407
支払承諾見返 a/c	407
未払利息その他 a/c	861
未払利息その他戻入 a/c	862
未経過割引料その他 a/c	854
未経過割引料その他戻入 a/c	854
預金利子諸税 a/c	882
未払送金為替 a/c	860
行員退職手当基金 a/c	272
戻し割引料 a/c	869
戻し利息 a/c	869
動産不動産価額償却 a/c	681
法定利益準備金	837
調整勘定	631
調整勘定経理表	631
繰越日記	191
日記帳	717
増補日記帳	570
日計表	719
日查表	719
総勘定元帳差引残高表	557
月計表	219
総勘定元帳合計残高表	557
業務報告書	179
他店切手手形記入帳	601
交換持帰手形記入帳	274
交換差引残高記入帳	274
不渡警戒人名簿	824
送金手形記入帳	560
支払送金手形記入帳	408
仕向当座振込記入帳	423
被仕向当座振込記入帳	766

機械化会計

機械化会計	149
（機械簿記）	152
機械化会計組織	150
会計機械	56
会計器具	57
登録式会計組織	691
登録式会計機械	689
記帳式会計組織	169
記帳式会計機械	166
（簿記機械）	839
穿孔カード式会計組織	547
穿孔カード式会計機	545
パンチ	751
パンチ・カード	753
穿孔機	547
計算穿孔機	210
集団複写穿孔機	447
合計穿孔機	280
検孔機	258
検孔	258

分類機	824
分類	824
会計機	55
タビュレイティング	616
リスティング	898
照合機	465
翻訳機	848
プラグ・ボード	816
ワイアーリング・ユニット	917
電子式会計機械	663
（電子式会計組織）	665
データー・プロセッシング・センター	658
コード	311
コーディング	311
カード・パー・ユニット・システム	100
タグ・システム	599
キー・ソート・メソッド	165

会計事務管理

会計事務	60
会計事務管理	60
会計事務管理組織	61
分課制度	824
会計部門組織	70
会計事務組織表	63
会計組織	65
勘定組織表	137
コンテンツラメン	318
帳簿組織表	638
計算図表	212
書式	481
会計器具	57
アカウンティング・プロセスデュア	4
プロセデュア・プロジェクト・プラン	821
フロー・チャート	821
システム・リポート	396
経理規程	218
組織便覧	572
執務便覧	404

財 務 会 計

総 論

日本会計の発展	720
日本会計原則の発展	719
アメリカ会計原則の発展	8
イギリス会計原則の発展	11
ドイツ会計の発展	667
サヴァリイ「完全な商人」	358
フッガー商会の棚卸	802
ブラウンの会計史	815
ウールフの会計史	35
ペンドルフの会計史	830
ペラガロの会計史	829
ジョーフェキングの会計史	409
ジモン・ステフィンの会計書	423
ゴムベルクの学説史	316
ケルン学派	228

貸借対照表論の発展	591
静態論	532
静的貸借対照表論	532
動態論	686
動的貸借対照表論	686
有機的貸借対照表論	874
会計	52
財務会計	345
会计学	53
企業会計	155
会計制度	65
統一会計制度	620
会計年度	69
（営業年度）	39
収支計算	443
損益法	581
財産法	336

部分利益	811
（期間利益）	155
全体利益	550
全体損益計算	549
損益計算	575
（損益会計）	574
成果計算	505
期間損益計算	154
（年度損益計算）	728
損益計算制度の発展	578
年度貸借対照表制度	728
口別損益計算	184
期末棚卸制度	172
財産計算	334
アカウンタビリティ	3
（会計責任）	65
コンヴェンション	317